

## 繋留方式における夜間飼料給与が乳牛の昼間分娩率に及ぼす影響

【要約】 夜間に飼料給与することにより、飼養形態の違いに係わらず、昼間に多く分娩させることができる。

畜産研究所・大家畜部・乳牛研究室

連絡先

092-925-5231

部会名	畜産	専門	飼育管理	対象	家畜類	分類	普及
-----	----	----	------	----	-----	----	----

### 【背景・ねらい】

乳牛の分娩前の飼養管理については、分娩予定日2週間前から夜間に飼料給与し、昼間に多く分娩させる技術を明らかにしてきた。

そこで、飼養形態（スタンション繋留と単独房）の相違が昼間分娩に及ぼす影響について調査し、分娩前の飼養管理技術を明らかにする。

### 【成果の内容・特徴】

昼間に多く分娩させる技術により深夜に及ぶ分娩監視の回数が減ることや、分娩日の予測技術（3年度成果）により異常産や産後管理等に対する準備が分娩前にできることから、分娩管理に関する労働が軽減できる。

- ①飼料の夜間給与により、スタンション繋留の分娩は約75%が、また単独房は約80%が午前5時から午後5時の間に起こり、昼間給与の場合の約56%より多い（表1、図1）。
- ②スタンション繋留、単独房等飼養形態の相違による昼間分娩の差はみられない（表1）。

### 【成果の活用面・留意点】

- ①飼養管理省力化普及技術として活用する。
- ②スタンション繋留で昼間分娩を誘起する場合、盗食を防止し、分娩2、3日前には分娩房に移す必要がある。

[具体的データ]

表1 昼間分娩の割合（平成4～5年）

	5:00～17:00	17:00～翌朝5:00
スタンション繋留 <sup>1)</sup>	75.0%	25.0%(n=16)
単独房飼養	80.0	20.0 (n=10)
全体	76.9	23.1
参考 <sup>2)</sup>	56.5	43.5 (n=347)

注) ①スタンション繋留区は分娩2～3日前に分娩房に移した

②午前9時と午後3時に飼料給与（帯畜大、新出陽三）

③飼料給与

給与時間：午後6時、1回

配合飼料：1kgから4日毎に1kgずつ4kgまで漸増

粗飼料：8～10kg

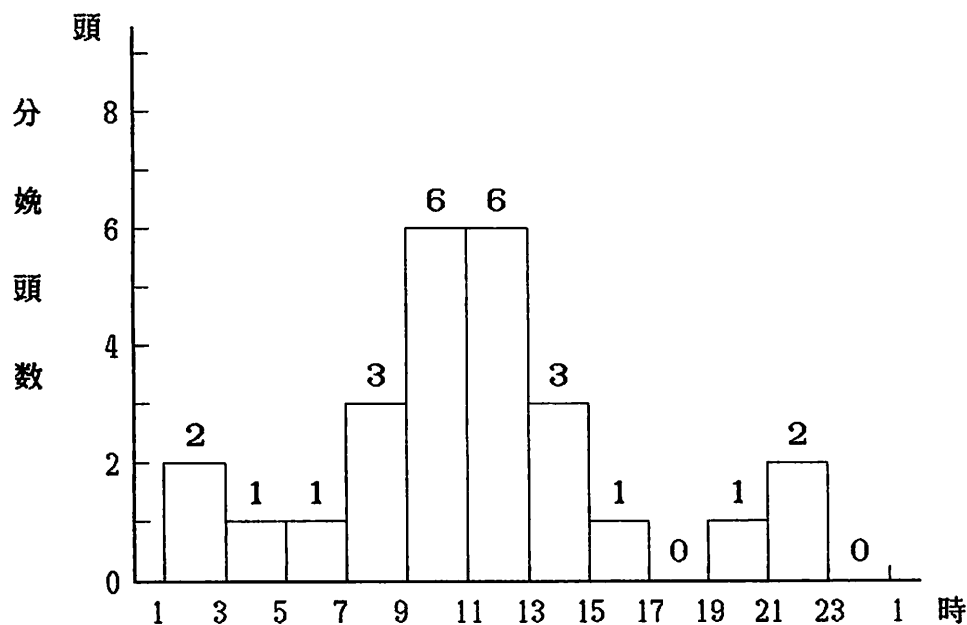


図1 各時刻の分娩頭数（平成4～5年）

[その他]

研究課題名：飼養環境の相違による分娩制御技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成5年度（平成4～5年）

研究担当者：小島雄次、山下克之、家守紹光

発表論文等：平成5年度畜産関係試験成績書